

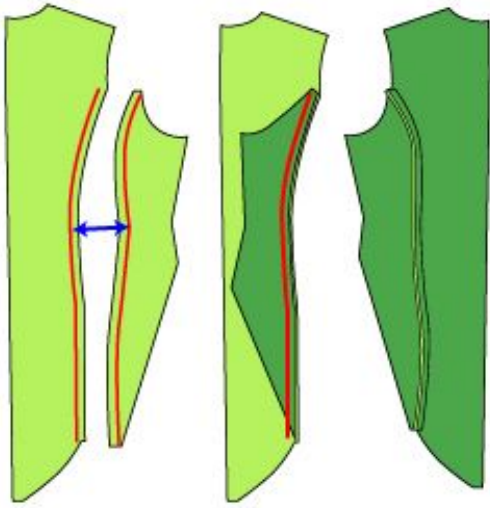

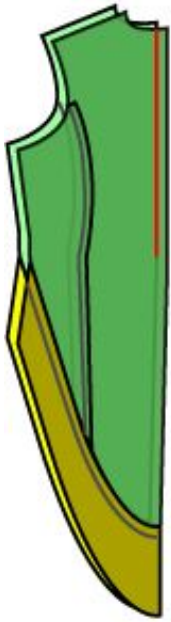
	<p>型紙で指定されたところの裏側に接着芯を貼っておく。</p> <p>表生地は ■ が裏 ■ 表</p> <p>裏地は ■ が裏 ■ 表</p> <p>裏地が付くので、ほつれやすい生地でなければほつれ止めはしなくてもよい。</p>
	<p>前身頃2種類あります。</p> <p>幅が広いほうが前が重なるタイプ。</p> <p>幅の狭いほうが前が重ならないタイプです。</p>
	<p>すそに2種類あるのは丈の違いです。</p> <p>型紙を体に当てて好みの丈で作ってください。</p>
	 <p>裏地の後中心と後ろ脇を縫ってください。</p> <p>縫い代はアイロンで後中心側へ折ってください。</p> <p>このとき裏地は表地より大きめに裁断してありますので、縫い代を深めに折りたたんで同じ長さになるように調整してください。</p> <p>これをお裁縫の用語で「キセ」といいます。</p>

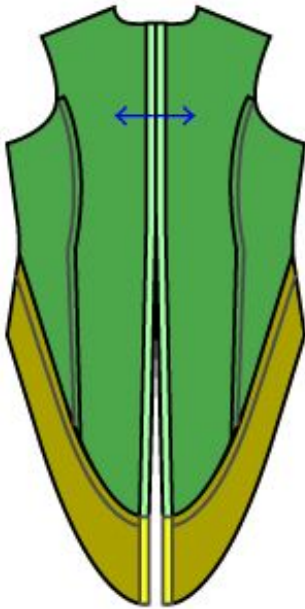
1) 2) 3)

キセ（裏地を調節する）方法は  
 1) 1センチの幅で縫ってください。  
 2) 縫い代から5mm内側で折ってください。  
 アイロンの温度は中～低温で。  
 温度が高いと素材によっては縮んだり、引きつったりすることがあります。  
 3) 折り目を広げないように気をつけて生地を広げて、続きの作業をしてください。  
 市販の裏地のついた洋服を見ても、同様に折り目をつけて裏地に余裕を持たせているのを見ることが出来ますよ。  
 表地より裏地の余裕が少ないと、表が引きつり、ます。  
 そのため裏は多少ゆとりがあったほうが綺麗に仕上がります。  
 特に裏地は裁断している端からずれやすいので縫い合わせる相手の場所にあう長さになるように臨機応変にずらしてください

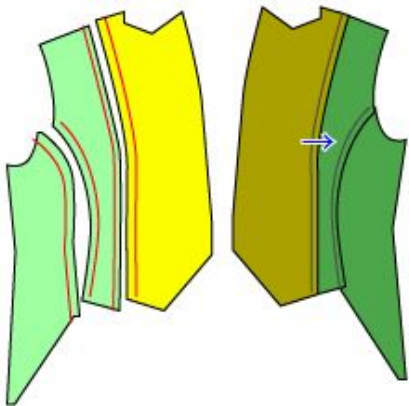
裏地の後身頃（胴体）の下にすその見返しを付けてください。  
 縫い代はアイロンで上側に折ってください。



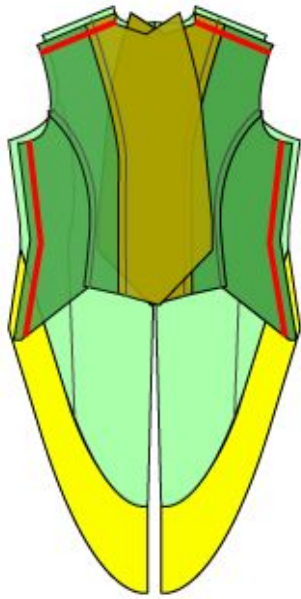
後中心同士を縫って  
ください。  
腰からは左右に分かれるので縫わないで  
ください。



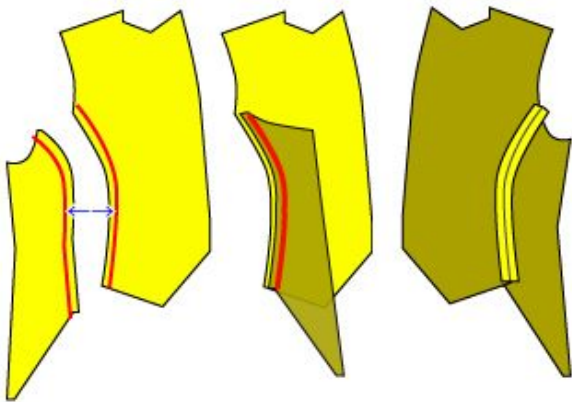
縫い代は左右に広げてください。



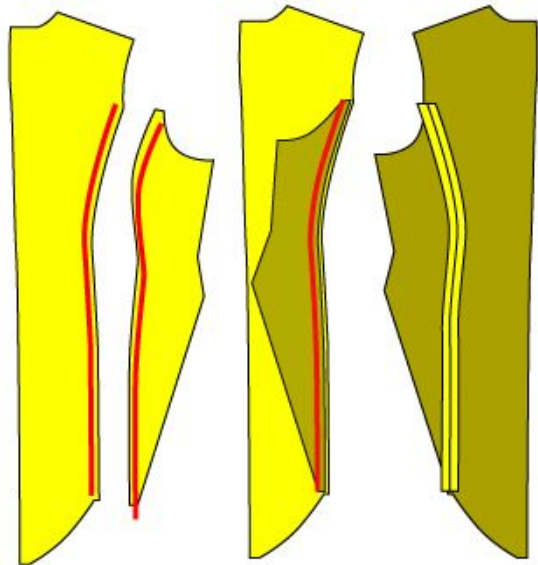
前の見返しに前身頃  
の裏地を縫ってください。  
縫い代は脇側に折ってください。



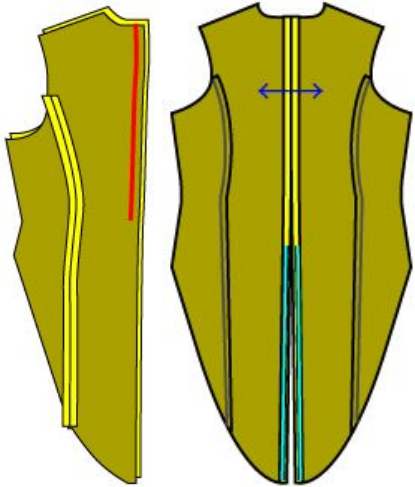

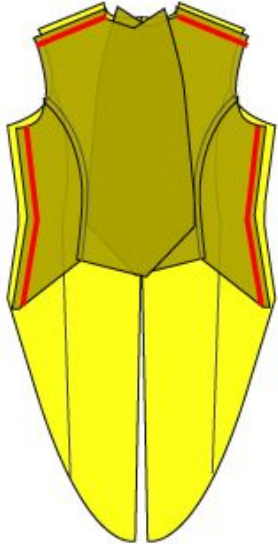


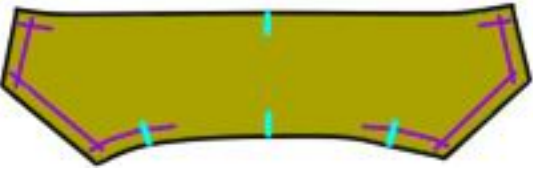
後の裏地と前の裏地の肩と脇を縫ってください。  
 (わかりやすいように右半分の画像は省いています)

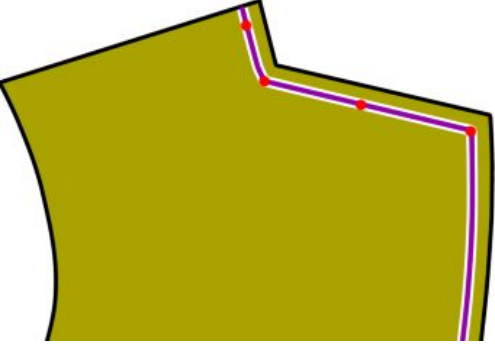
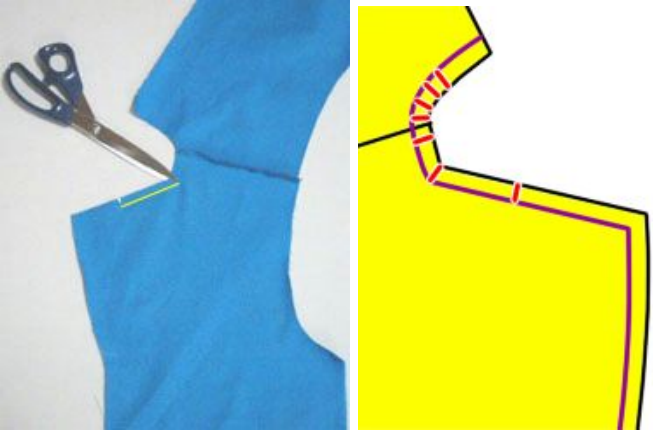



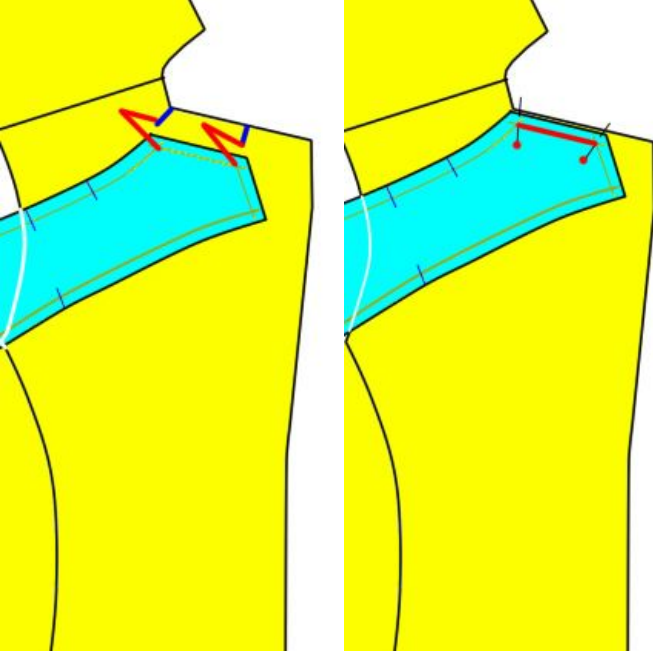


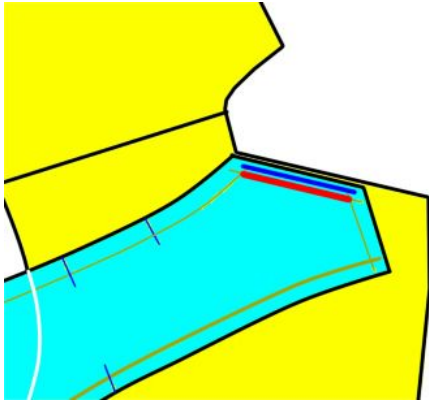
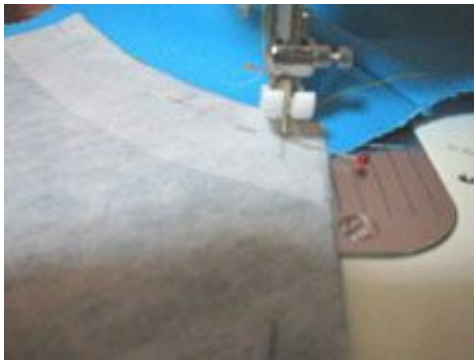
表地を縫ってください。  
 赤い部分を縫ってください。  
 縫い代はアイロンで左右に広げてください。



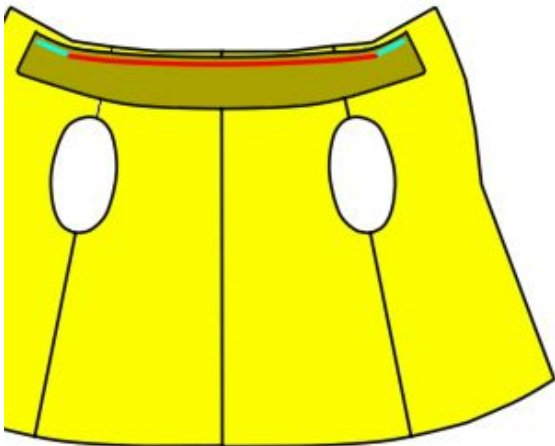
後の中心と後ろの脇を縫ってください。

	 <p>後中心を表同士が内側になるように重ねて縫ってください。後中心の縫い代は左右に折ってください。スリットのところにあれば、熱接着の両面テープを貼ってください。</p>
	 <p>表地の肩と脇を縫ってください。</p>
	<p>えりを縫ってください。同じように裏地にもえりを縫いつけてください。</p>
	<p>接着芯をつけたらえりにしるしを入れてください。 消えるチャコペンや、表に響かないペンなどで型紙を重ね、上の図であけた穴の所に印をつけます。裏側は、縫いやすいよう交わるように出来上がり線を図のように引いておくと綺麗に縫えます。 ※見返しにつくほうが表衿になります（折り返して表に来るので）</p>

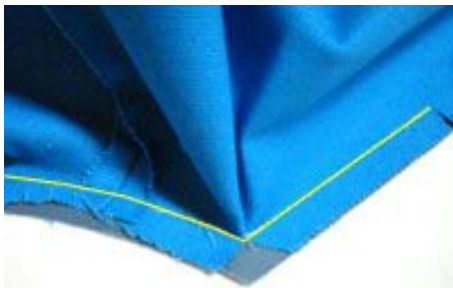
	<p>身頃のえりの所にも印を付けておくとより縫いやすくなります。</p>
	<p>そのままとえりぐりを縫うとき引きつってしまいますので、前身頃の縫い代に縫い目を切らないよう気持ち1ミリ残す感じで切込みを入れてください。 切込みを入れる場所は後ろのえり首のカーブのところ前身頃と見返しの型紙に印のあるところの縫い代に切込みを入れてください。</p> <p>  or  (洋裁工房の場合この印) (8~9mm) </p> <p>  この模様は切込みではなく点で印を入れてください。 </p>
	<p>えりの印と、身頃の位置があうように、真上からまっすぐ針を刺し、固定してください。</p> <p>。</p>



縫い始めは手動で、丁度交点に針が落ちるようにミシン針をおろして縫い始めてください。  
縫い終わりも縫いすぎないように注意して、スピードを落とすか、手動でぴったり交点まで縫ってください。  
縫い慣れていない人は、ミシンで縫う出来上がり線より2~3mm離れた所（青い線）を手縫いで縫っておくと、縫いやすいです。

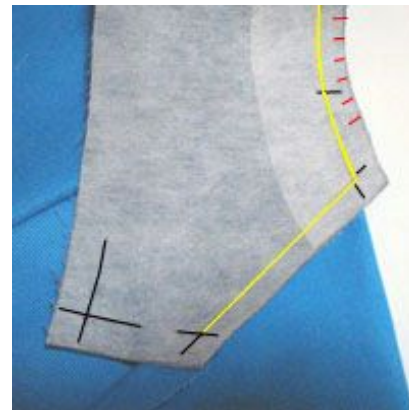


1)



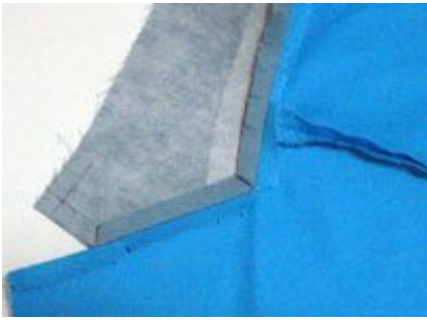
2)

1) 首の横から後ろを縫います（赤い線の部分）  
ここも、ミシンで縫うラインより2~3mm離れた所をしつけ糸で手縫いしてください。  
それからミシンで縫うと綺麗に縫いやすいですよ。  
出来るだけずれたりしないように角がきちっと合うように縫ってください。  
これが重なったりずれたりすると表から見たとき引きつったように見えたりします。  
2) 余分な生地を縫いこんだりしないように、図のように生地をたたんで、出来るだけまっすぐな状態にして縫うと綺麗に縫えます。

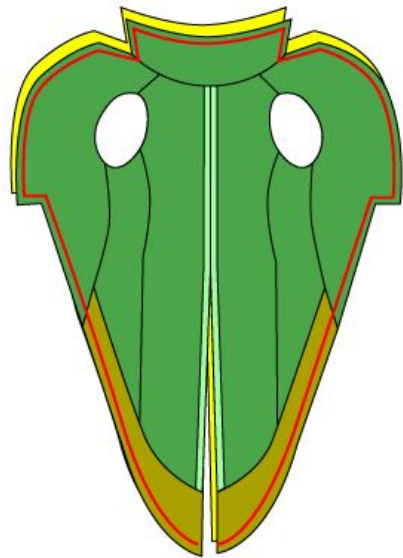


カーブの所は引きつったりゴロゴロしやすいので、ぬいしろに浅く切込みをいくつか

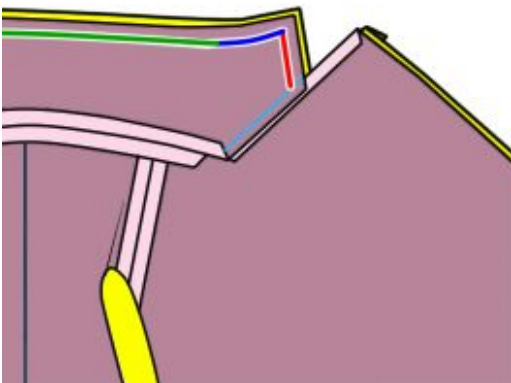
入れておくと落ち着きます。



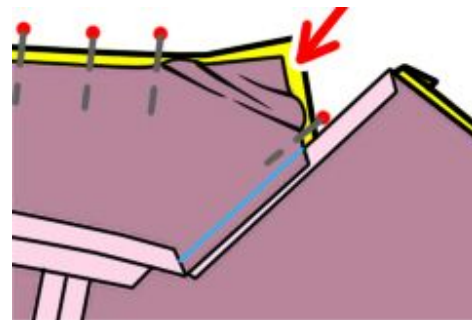
アイロンで縫い代を左右に折ってください。



裏地と表地を  
表同士が内側  
になるように  
重ねてまわり  
一周縫って  
ください。  
襟部分の詳  
しくは下記参照

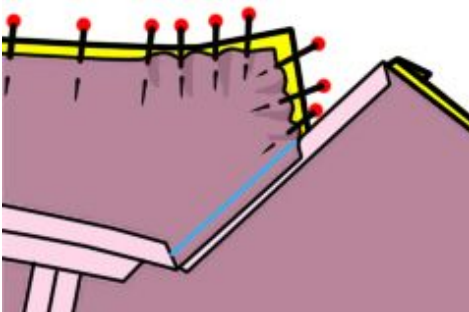


えりにピンを刺すとき緑の区間は均等に  
してください。



赤と青

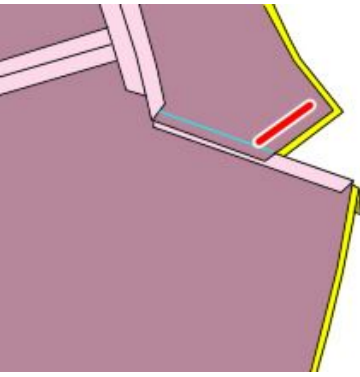
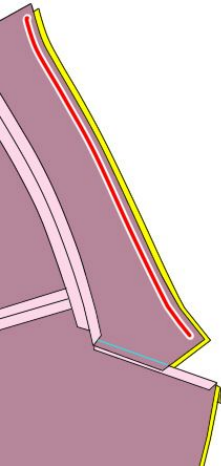
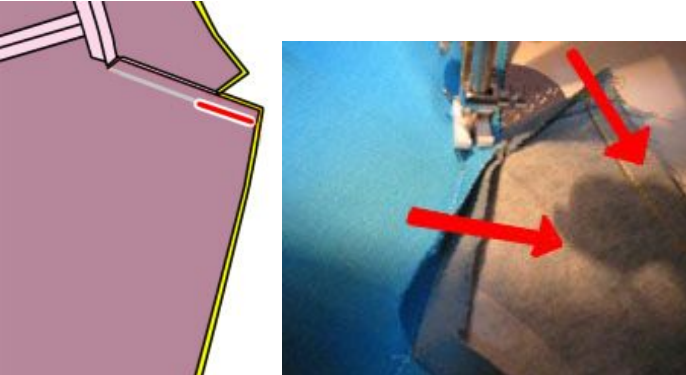
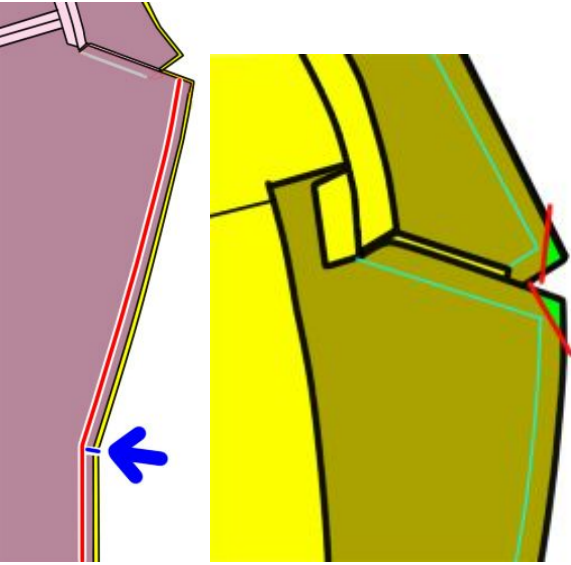
の区間は見返し側のえりを2mmほど内側に  
ずらして縫ってください。

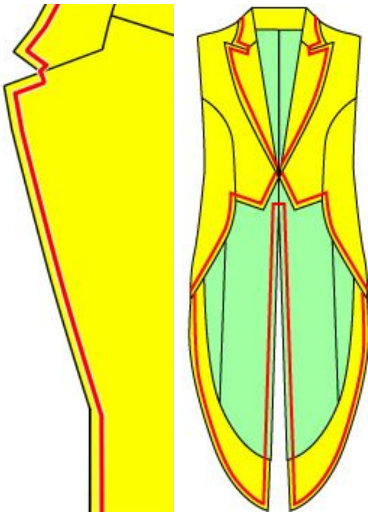


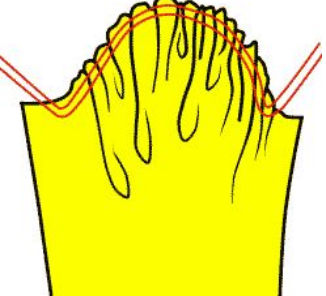
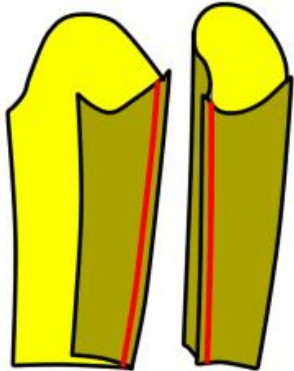




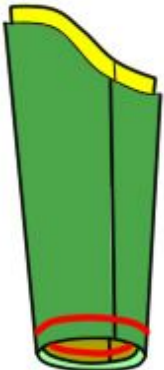
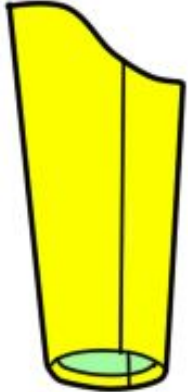
しわにならないようにずらした分を均等に  
分散させて、細かくピンで固定してくだ  
さい。

ずらしたぶん生地にダブつきが出ますが、  
それで正解です。  
ずれないようにしつけ糸でミシンで縫う場  
所より2~3mm離れたところを縫ってくだ  
さい。  
しつけをしたらピンはずしてください。



	<p>えりの縫い代を縫い込まないようによけて、えりの両端を縫ってください。 縫うときは緩みを入れたほう（見返し側）のえりを下にして縫うと綺麗に縫いやすいです。</p>
	<p>えりの上を縫ってください。</p>
	<p>見返しの先からえりの境目までを縫ってください。 そして、最初に衿を縫った線と、合体するように縫ってください。</p> <p>この時もえりの縫い代を縫いこまないように注意して、縫い代をよけておきましょう。</p>
	<p>前中心を縫ってください。 表替えした時、角が引きつりますので、図の青い部分に縫い糸を切らない程度切込みを入れてください。</p> <p>表がえす時に先が厚くならないように、縫い目から2mm離れた角を切り落としてください。</p>

	<p>端から 5 mmの所をミシンで縫ってください。        (表から見える所を縫う事をステッチをかけると言います。)</p> <p>熱接着の両面テープを貼った場合。        ここではくり紙をはがしてアイロンで固定してから縫うとずれたりねじれたりして仕上がりがよったりせずきれいに作れます。</p>
<p>拡大図↓</p> 	<p>そで山にギャザーを寄せてください。</p> 
	<p>そして裏の方の長く残しておいた糸だけを引っ張りギャザーを寄せます。        (これを一度覚えておくとスカートやいろいろな事に応用がきくので、是非チャレンジしてみましょう！)</p> <p><b>裏地も同じようにギャザーを寄せてください</b></p>
	<p><b>【重要】必ず糸調整を元に戻してください。</b></p> <p>2枚のそでを表側が内側になるように重ねて両脇を縫ってください。        同じように裏地も縫ってください。</p> 

	<p>アイロンでそで口を出来上がり線で折ってください。</p>
	<p>裏地のそで山の縫い代をアイロンで裏側へ折ってください。</p>
	<div style="display: flex; align-items: center;">  <p>裏地と表地を内側どおしが表になるように重ねてください。 表と裏地のそで口をあわせて1cmで縫ってください</p> </div>
	<p>表がえして、アイロンの折り目通りにそで口を折ってください。</p>

	 <p>裏地をよけて、表のそでをそでぐりに縫ってください。      そで山の中心と肩、そで底の縫い目と、脇の縫い目をあわせてください。      ギャザーの量を調節しながら待ち針で止めてください。      なれていない人は<b>しっかりしつけ糸で端から5~8mmの所を手縫いをしてまち針を外してからミシンで縫ってください。</b>      出来上がり線から少しずれたところを縫うことで、後でミシンで縫った後、しつけ糸を抜きやすくなります。</p>
	<p>裏地の袖山は縫い代を内側（中に隠れる方）に折ってください。      待ち針でそでぐりにとめてください。      ギャザーを寄せてそでぐりと裏地そでが同じ長さになるように調整してください。      手縫いで表に縫い目が出ないように裏地をぬいつけてください。      裏に隠れる部分なのでしわはあまり気にしなくていいです。      それより縫い代を余分に取りすぎて、引きつらないように注意してください。</p>

必要な材料

表生地 裏地 接着芯 ボタン お好みで肩パット

オススメの生地

ポリエステルツイル

裏地 帯電防止加工（静電気がおきにくい加工）の裏地を使うとまとわりつきにくいですよ。